DERWENT-ACC- 1976-56936X

NO:

DERWENT-

197630

WEEK:

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE:

Heat sealing interlining cloth prodn. - by coating woven or non-woven fabric

with two different adhesives

PATENT-ASSIGNEE: JAPAN VILENE CO LTD[NIVL]

PRIORITY-DATA: 1974JP-0138873 (December 5, 1974)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO PUB-DATE LANGUAGE PAGES MAIN-IPC

JP 51067462 A June 11, 1976 N/A

000 N/A

JP 84020794 B May 15, 1984 N/A

000 N/A

INT-CL (IPC): A41D027/06, B32B017/12, C09J003/14, D06M017/00, D06N007/04

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 51067462A

BASIC-ABSTRACT:

Title cloth, which exhibits excellent fastness to dry cleaning and hot washing, strong adhesive power under pressing at 150 degrees C for 10 seconds and has a long storage life, is produced by applying to the foundation, (1) a hot melt curing adhesive and drying, and (2) a thermoplastic adhesive which contains a catalyst for curing and drying. The adhesives are so designed as to melt together upon application of heat and pressure. (1) is a copolymer which contains glycidyl, methylol and other reactive radicals. carboxylic anhydride, paratoluene sulphonic acid, etc. are used as catalyst. (2) is polyethylene, polyamide or any conventional adhesive.

TITLE- HEAT S

HEAT SEAL INTERLINING CLOTH PRODUCE COATING WOVEN NON

TERMS:

WOVEN FABRIC TWO ADHESIVE

DERWENT-CLASS: A35 A94 F06 G03 P21 P73

CPI- A11-B05; A11-C01C; A12-C03; A12-S05M; F03-D01; F03-E01; F04-C; G03-B02D;



(42)

昭和 47年10 月20

特許庁長官殿

1発明の名称

ジョウス(キョウヨウメフキンソ. ジ セイソウホウホウ 春 本 毎 用 被 曽 幸 子 の 製 造 方 法

明 者

> 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器產業株式会社內

(行办2名)

3 特許出願人

大阪府門真市大字門真1006番地 Œ 劢 (582) 松下電器産業株式会社 名 粝 化 农 者

松 下 퍈

4 代 理 人 Œ

T 571

. 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

मुत

(5971) 弁理士 中尾 敏 男子

(連絡先 電話(PDR) 453-8111 特許部分室)

5 添付書類の目録

- 明 細 卋 (1) 図 त्रवं
- (2) 套 任 状 (3)
- (4) 顧音副本

特許庁 47.10.23 HEINE

通 1:通 1 通 .

47 105485

19 日本国特許庁

49 - 64243 ①特開昭

6 昭49.(1974) 43公開日

47-105485 20特願昭

昭47.(1972)/0.20 22出願日 未請求

審査請求

(全5頁)

庁内整理番号

62日本分類

6462 22 6462 22 6921 46 91 CZZ

しかし、水道水の本来の目的を考えてみて 現在市販の浄水器においては、活性炭で塩素やカ を除去したるとの誰過水には軟悪能がないた 一般細菌をよび大腸酸群が浄水器の確遇水部に 紫殖することが考えられる。 このような細菌汚染の危険性を増減して市販浄水 静に被蔑姿置を設ける必要がある。水の救護剤と していろいろ考えられるが、浄水器本来の目的と して水の味をそとなわないととから水に雅海性の 銀塩が適当と考えられ、銀塩の溶解度の銀点から 塩化銀(水に対する溶解度 1 O⁻⁵ mo ℓ/ℓ) 臭化銀 ョゥ化銀(10⁻⁸ mol/t)を選択し、 特に塩化銀について以下に説明を行なり。

銀鼠用の浄水器に被団能を付加させる手段とし ては、酒性炭に塩化銀粉末を混合する手段、酒性 とのような手段はつぎのような久 一般末着性炎を用いた膿布と 集水管とが一体となった構造を有する静水

発明の名称

浄水器用被菌素子の製造方法

基根上に樹脂接着制を塗布し、 20 の硬化前にとの止から設置作用を有する難 塩粒子を付着させるとともに、上記業落性保塩粒 子を上記者服接着剤に押し込むように加圧し、し かる後上記樹脂接着剤を硬化させて上記難海性銀 塩粒子を基根に接着させるととを特徴と 器用被國案子の製造方法。

3、発明の詳細な説明

本発明は市販浄水器に被曹機能を付加させると 目的としている。ずなわち都市の水道水 塩果ガスタよびカルキなどを浄水器中の活性炎で 設去したあとの護過水の殺闘を 塩化銀あるいは臭化銀あるいはヨウ化銀の水に難 海性の銀塩を用いた浄水器に激置機能を付加させ るととを目的としている。

現在市原の浄水器には鉄道機能を有するものは

- (1) 活性炭が濾布の表面に有効にブリコートされたもの以外の活性炭は濾布層を有するカートリッジの下部に沈降し、その沈降した活性炭に吸着または混合された塩化銀はほとんど利用されない。
- (2) 活性炭の真比重は2.0で見掛け比重は約0.20である。一方塩化銀の真比重は5である。このように比重が大きく異なるため塩化銀の粉末は活性炭と分離し、液布脂を有するカートリッジの下部に沈降するため塩化銀の利用率は悪るくなる。また細菌を殺菌する必要な一定量のApfイオンを常に溶出させることが困難である。

5

である。

以下、本発明の一実施例を図面とともに具体的に説明する。

図において、1は密閉された円筒状のケースで、 ケース本体2と薪3とからなり、ケース本体1の 医蟹には水道に連動する加入孔 4 を設け、 最 3 の 中央には蛇口ちを図転可能に設けている。6はケ 1内に収納したカートリッジで、合成樹脂に より密閉された円筒状に形成しており、その下面 、アを設けている。とのカートリッジ 6とケース1との間には間隙8を形成している。 日はカートリッジの内に収納した確遇体で、細長 い長方形状に形成した目の粗い多孔性の樹脂製骨 材10を樹脂繊維からなる目の細から布裏の膿布 11で包み、その第日部は製脂装着剤により期毒 している。この説過体での中央には樹脂農集水管 12の下部を折入してかり、集水管12の譲遠体 9 内に位置する部分には多数の集水孔 1 3 を設け ている。との撤退休日は第2回に示すように統行 「秋に折磨した状態でカートリックの内に収納する。

特開 昭49-64243(2) を敬着させる既に厚く改着させると活性炭モの ものの性能が減少し、浄水器として用いられない。また淳く政着させるとしても、初期に多量 浴房し、活性炭の寿命より先に塩化銀がなくな る可能性がある。

- (4) 品質管理上活性炭がどの程度吸着されている か否かをテェックすることが極めて困難である。 (5) 塩化銀の数細な数子が濾過水中にコロイド状 で流出し、飲料水として飲む危険性が考えられる。
- (B) 家庭用浄水器の敷留効果は確布の括性炭質すなわち、原水側では塩素またはカルキが存在するため敷留剤を扱入する必要はない。細菌の素強するのは薄漉漉水の通過する市内の集水側で 193%ある。

以上のように塩化銀の性質かよび浄水器の保造上の特徴を考慮して、本発明では市販浄水器の減 過水倒(減布と集水管が一体となったものは減布 の集水管の近辺)に設けられて細菌を殺菌する冷 水器に有用な故菌素子の製造方法を提供するもの

そして集水管12は上端がカードリッジ8を貫通 して蛇口5K連結されている。14はカートリ ジョ内に入れた活性、炭粉末である。 1 5 は活性炭 粉末14がカー ┡ リッジ8外へ編出しないように 産通孔で、アを閉塞したシールで、通常は普通の 紙と同じ性質であるが水に濡れると数秒間で溶解 してしまりものである。18はケース1の上部に 設けた空気抜き孔、17はその後体、18はカー トリッジの一の上部に設けた空気抜き孔、19は空 気抜き孔18を閉塞したフィルタである。 とのフ イルタは空気と水は通過させるが、盾性炭粉末14 は通過させない程度の多孔性を有する。20は殷 曽削としての難溶性銀塩粒子を接着剤を介して基 板に接着させたフィルム状の蔵菌業子であって、 これは微脂製膏材10の一部に折込まれている。 との数菌素子 2 O は第 6 図(e) に示すように可絶性 基板21に樹脂要着剤22を介して最高性銀塩粒 子23を接着したフィルム状のものである。これ 御服養着剤2.2に接着されて確遇水と接触す るように影響性鉄塩粒子23が表面に露出した機

造となっている。

つぎに浄水器の動作について説明する。水道か らの水が流入孔4から供給されてくるとまず水管 性のシール18、18が狩得して旅遊孔で、てが 開口する。そのため水道水は筬通孔で、てからカ ートリッジ8内に入って活性炭粉末14を攪拌し、 ついて濾過体目内へ通過する際に活性炭粉末14 を濾退体の外表面にブリコートし、濾過体の外表 面には盾性嵌粉末層ができる。そのため水道水は 活性炭粉末層14に瀘過されるととになり、水中、 に含まれているカルキ。塩紫ガスなどが除去され. る。その旅過後の水は凝過休日内を通り、集水管 12の集水孔13部分に集められたのち、集水管 12を通って蛇口でから外部へ供給される。一方、 集水管12近くの濾過休の内かよび必要に応じて その他の部分にも配置した乳酸粉を配が脱組機30 は於々に水中に溶解し、その人がイオンが浄水器 内にかける殺菌を行なり。そのための浄水器内に 前が繁殖するかそれもなくなる。 とのような難答 性銀塩粒子を樹脂接着剤を介して接着した被菌素

エポメートB-002を40gから成るものである。 ついて、上記接着刺22の上に塩化銀粒子23を ふりかけて、マイラフィルム24を用いて加圧ロ - ラ28で上記塩化銀粒子23を上記接着剤22 中に押し込んで、上記塩化銀粒子23を樹脂接着 剤に圧着させる。その後、余剰の塩化銀粒子23 を振動を加えて除去し、100℃で2時間硬化をせ て完全に塩化銀粒子23を接着させる。との硬化 条件は使用する樹脂接着剤22が常温硬化型のも のであれば加熱する必要がない。しかる後、接着 強度の弱い塩化鉄粒子、すなわち、接着剤に保持 されなかった塩化銀粒子はワイャブラシ(図示せ ナ)を用いて強制的に除去する。 とのようをして 得られた波蘭素子20は、塩化袋粒子が0.012月 /om² 程度付着していた。との塩化銀粒子.2.8の 付着量は、樹脂姿着刺22の厚み、塩化銀粒子23 の粒径を制御するととによって、容易に制御する ことができる。しかし、これは技法する塩化銀の 袋の待出量に余り関係しないので、袋造上の大き

な問題とならない。との彼曹末子を頼々の大きる

特開昭49-64243(3)
子を内蔵した浄水器を上下道に実際にとりつけ、
2 4時間経過後の濾過水の初溜分中のAg⁺イオン 論度を調べてみると 4 6 PPb であった。このAg⁺ イオンの存在する濾過水中に大腸菌(Escherichia Coli K-IZ-A)を 6 × 1 O⁸ 個/mℓ の過度に調整 し大腸菌を浄水器に添加すると添加後の時間で大 腸菌は完全に死骸していることが確認できた。

つぎに本発明にかかる浄水器に使用される被菌 素子について説明する。 との被菌素子は100円 (a) に示すようにしてつくられる。すなわち、厚 みが80μ程度のマイラフイルムなどの可強性物 脂基板21の上に接着剤22を通常のスクリーン 印刷法によって強布する。接着剤2-2はエポキン 樹脂繊維剤を用いるが、これ以外にも使用する可 機性制脂基板との緩和性の良いものであれば使用 できるととは云うまでもない。また接着剤22の 造布はローラ印刷もしくは能量りで行なっている。 ここで使用するエポキン樹脂、接着剤22はエピコート828を429、アデカンシン6P-4000キ√8g

10

のものに切断して浄水器の確遇体 9 の機関製骨材 1 Oに取付けて Ag⁺ イオンの溶出量を求めた。下 表はそれぞれの大きさの波蘭素子にかける時間に 対する Ag⁺イオンの溶出量を示している。

海出時間	Afolの付着面積	Apolの絶対付着量	Ap ⁺ イオンの溶出量
(hr)	(cm2)	(/)	(ppb)
3	18	0.248	45
8	18	0.243	4.5
16	18	0.243	45
1 5	9	0.120	46
1 5 ·	. 82	0,425	. 45
16	90	1,200	46

Ap⁺ イオンの溶出量は、ペックマン社製の原子 吸光分析器を使用して、原子吸光分析によって求 めた。

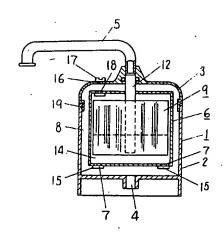
上記実施例では、殺蔑剤としての塩化銀粒子を接着剤を介して基板の片面に形成する方法で説明を行なったが、間様にして基板の両面に形成できることは云うまでもない。

4、 図面の簡単な説明

[•]

第1回は本発明にかかる浄水器の断面面、第2回は同浄水器の確適体の斜視図、第8回はその中央断面面、第4回かよび第8回はそれぞれの被曹潔子の取付状態を示す確遇体の拡大平面図、かよび拡大断面図、第6回 4~6 は本発明の一実施例を示す浄水器用教曹素子の製造方法を説明する図である。

第 1 図

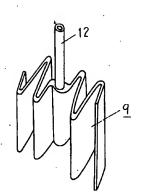


特朗 昭49— 6 4 2 4 3 (4)

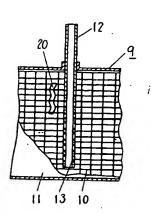
多多"""家是家子。至1""毒疾。2) 野姜姜剂。2点……剪数体品作物之

代理人の氏名 弁理士 中 周 敏 男 ほか1名

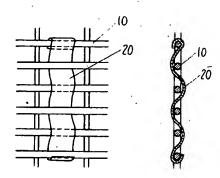
第 2 図

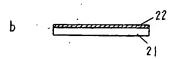


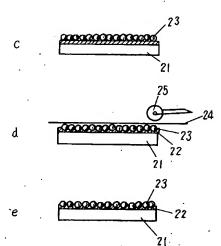
第 3. 图



5 図







6 前記以外の発明者および代理人

(1) 発明者

大阪府門真市大学門真1006番地松下電器產業株式会社內 住

カワ

(2) 代理人

大阪府門真市大字門真1006番地 住 · 所

松下電器産業株式会社内。

51067462

HEAT-FUSION CORE CLOTH AND MANUFACTURE THEREOF

(Netsuyuchaku Shinji oyobi Sono Seizo Hoho)

Zenji YOSHIDA and Hitoshi GOTO

UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE
Washington, D. C. March 2007

Translated by: Schreiber Translations, Inc.

Country : Japan

Document No. : 51-67462

Document Type : Kokai

Language : Japanese

Inventor(s) : Zenji YOSHIDA

Hitoshi GOTO

Applicant : Nippon Vilene Co., Ltd.

JPC : 47 DO

24(5) B5

IPC : D 06 N 7/04

B 32 B 17/12

C 09 J 3/14

Date of Filing : December 5, 1974

Publication Date : June 11, 1976

Foreign Language Title : Netsuyuchaku Shinji

oyobi Sono Seizo Hoho

English Title : HEAT-FUSION CORE CLOTH

AND MANUFACTURE THEREOF

SPECIFICATION

- I. Title of the Invention
 - Heat-Fusion Core Cloth and Manufacture Thereof
- II. Claims
- 1. A heat-fusion core cloth (lining cloth), which is made by applying two kinds of adhesive, i.e., a hot-melt curing adhesive and a thermoplastic adhesive containing a catalyst effective for curing said hot-melt curing adhesive to a base cloth so that the two adhesives are fused at least during heating and applying pressure.
- 2. A manufacturing method of the heat-fusion core cloth, wherein one of two kinds of liquid adhesive, i.e., a liquid hot-melt curing adhesive and a thermoplastic adhesive containing a catalyst effective for curing said hot-melt curing adhesive is coated on a base cloth and dried, and then another adhesive is coated and dried.
- III. Detailed Description of the Invention]

This design relates to a heat-fusion core cloth, and its purpose consists in providing a heat-fusion core cloth that gives excellent dry cleaning resistance and high-temperature

¹Numbers in the margin indicate pagination in the foreign text. washability under press conditions of about 150°C and 10 sec and good adhe-sive strength and also has excellent storability.

Core cloths given by applying a thermoplastic adhesive to a base cloth such as woven fabric, non-woven fabric, etc. have known fusion core cloth as for clothing before. Polyamides, polyethylene, polyvinyl chloride, polyvinyl chloride-ethylene copolymer, etc. are generally used as thermoplastic adhe-sives for these core cloths. However, all the adhesives are thermoplastic and have such disadvantages that a peeling trouble occurs when they are washed at high temperatures or heated with-out applying a pressure, and the dry cleaning resistance is also not enough.

To improve these disadvantages, the use of hot-melt curing adhesives was proposed in place of the thermoplastic adhesives. Resins are cured by cross-linking reactions during melting adhesion by heating to improve said disadvantages of thermoplastic adhesives. However, the hot-melt curing adhesives have such a dis-advantage that the curing based on cross-linking reactions under common press conditions, i.e., press/2 conditions of 150°C and 10 sec is insufficient and a good adhesive strength is not obtained. Conversely, if a considerable

amount of curing catalyst is used to cause a sufficient crosslinking reaction under the common press conditions, it has such a disadvantage that the cross-linking reaction proceeds with a lapse of time and impairs the storage stability of adhesive.

The present invention improves all these disadvantages and provides a heat-fusion core cloth that gives excellent high-temperature resistant washability and good adhesive strength as well as has excellent storage stability.

Namely, the present invention is a heat-fusion core cloth made by applying two kinds of adhesive, i.e., a hot-melt curing adhesive and a thermoplastic adhesive containing a catalyst effective for curing said hot-melt curing adhesive to a base cloth so that the two adhesives are fused at least during heating and applying a pressure.

The present invention is characterized by the fact that a hot-melt curing adhesive and a curing catalyst of said adhesive are applied to a base cloth, respectively so that a cross-linking reaction thereof does not occur under heating and applying a pressure, and a thermoplastic adhesive having excellent initial adhesive strength is used as a medium for applying this catalyst, and it eliminates the disadvantages of the thermoplas-tic adhesive and the hot-melt curing adhesive.

As base cloths used in the present invention, any materials used as core cloths may be used, and woven fabrics or non-woven fabrics are commonly used.

As hot-melt curing adhesives, for example, copolymers containing a reactive group such as glycidyl, methylol, alkoxymethyl group, etc., and resins thermally stable at a temperature near to normal temperature are also used unless a curing cata-lyst is added.

catalysts, carboxylic anhydrides, As boron trifluoride monoethylamine, p-toluene sulfonic acid, titanium acetyl acetate or their mixture may be used acrylonitrile-alkyl acrylate-styrene-glycidyl methacrylate copolymer is used as a hot-melt curing adhesive; and p-toluene magnesium sulfonic acid, chloride, maleic anhydride, propanolamine hydrochloride or their mixtures may be used when an acrylonitrile-alkyl acrylate-styrene-butoxymethyl acrylamide copolymer is used as a hot-melt curing adhesive. Anyway, the curing catalyst should be properly selected in accordance with the employed hot-melt curing adhe-sive and is applied separately from the hot-melt curing adhe-sive, therefore it is important to select a good catalyst with a reactivity as strong as possible. This is because a cross-link-ing reaction occurs under common

press conditions to give a suf-ficient adhesive strength by use of a good catalyst.

On the other hand, existent thermoplastic adhesives for fusion core cloth, such as polyethylene, polyamides, polyvinyl chloride, etc. are adopted as thermoplastic adhesives used as media for applying these curing catalysts separately from the hot-melt curing adhesives. More preferably, thermoplastic adhesives having a similar composition as resins employed in the hot-melt curing adhesives may be used. This is because the two adhesives are fused extremely easily during heating and applying a pressure and the cross-linking reaction of a curing catalyst and a hot-melt curing adhesive proceeds smoothly.

The two adhesives selected in the above manner are coated on a base cloth, respectively. It is carried out by using conventional well-known techniques, e.g., roller coating, spray coating, screen coating, etc. as specific means. Off course, the two adhesives may also be coated by pasting the adhesives made into films or making them into powders and then scattering. The coating order and method of the two adhesives are not specially restricted, but the two adhesives may not be fused before heating and applying a pressure or applied as they are separated during heating and applying a pressure. Specific coating shapes are shown in Fig. 1 ~ Fig. 8.

The present invention is described in more detail by giving actual examples and referential examples below.

Actual Example 1

A hot-melt curing copolymer resin having a composition of acrylonitrile 42 wt%, n-butyl acrylate 45 wt%, styrene 9 wt% and

/3

glycidyl methacrylate 4 wt% was polymerized in an acetonetoluene

mixed solution. The intrinsic viscosity of this resin was 0.370 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution. A thermoplastic resin having a composition of acrylonitrile 44 wt%, n-butyl acrylate 46 wt% and styrene 10 wt% was polymerized separately in an acetone-toluene mixed solution. The intrinsic viscosity of this resin was 0.350 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution.

The above hot-melt curing copolymer resin solution was diluted with acetone, coated on one side of a non-woven fabric by spraying so that it became 16 g/m^2 by solid and then dried. The above acetone-diluted thermoplastic resin solution containing 10 wt% of p-toluenesulfonic acid to the solid of above thermoplastic resin is coated thereon by spraying so that it became 9 g/m^2 by solid and then dried.

The resultant fusion core cloth exhibited excellent properties as shown in a separate table.

Actual Example 2

A hot-melt curing copolymer resin having a composition of acrylonitrile 35 wt%, ethyl acrylate 55 wt% and butoxymethyl acrylamide 10 wt% was polymerized by emulsion polymerization process.

The solid concentration of this emulsion was 45 wt%. The intrinsic viscosity of this resin was 0.330 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution. A thermoplastic resin having a composition of acrylonitrile 42 wt% and ethyl acrylate 58 wt% was polymerized. The solid concentration of this emulsion was 46.3 wt%. The intrinsic viscosity of this resin was 0.360 in a measurement at 30°C with a dimethylformamide solution.

The above hot-melt curing resin emulsion was coated on one side of a non-woven fabric by spraying so that it became 8 g/m^2 by solid and then dried. The above emulsion containing 10 wt% of 1:1 mixture of magnesium chloride and maleic acid by solid was coated thereon by spraying so that it became 8 g/m^2 by solid and then dried. The above hot-melt curing resin emulsion was coated thereon by spraying so that it became 8 g/m^2 and then dried.

The resultant fusion core cloth was finally dried with a hot air dryer of 100°C .

The resultant fusion core cloth exhibited excellent result as shown in the separate table.

Actual Example 3

10 wt% p-toluenesulfonic acid by solid was included in the thermoplastic resin emulsion obtained in Actual Example 2, then dried and made into a solid form. It was crushed by a pulverized to make into particles of 150 μ or less.

30 pt (abbreviation of "part by weight") was added into 100 pt of the hot-melt curing resin obtained in Actual Example 2 and further thickened by adding 40 pt of a 8% solution of a tackifier Noigen DS-601 made by First Industrial Pharmaceutical Co., Ltd.) there into.

The above thickened solution was coated on a non-woven fabric by a screen textile printing machine so that the solid content became 22 g/m^2 and then dried.

The resultant heat-fusion core cloth was dried with a hot air dryer of 100°C .

The resultant fusion core cloth exhibited excellent result as shown in the separate table.

Reference Example 1

The above hot-melt curing copolymer resin solution was diluted with acetone, mixed with 5 wt% of p-toluenesulfonic acid

to the resin solid, coated on one side of a non-woven fabric by spraying so that it became 25 g/m^2 by solid and then dried.

The resultant fusion core cloth exhibited sufficient storage stability as shown in the separate table./4

IV. Brief Description of the Drawings

Fig. 1 ~ Fig. 6 are schematic sectional views of the present invention, Fig. 7 ~ Fig. 8 similarly show plane views, in the drawings, a sign 1 represents a base cloth, 2 a hot-melt curing adhesive, and 3 a thermoplastic adhesive containing a curing agent.

Table Adhesive Strength (kg/5 cm width)

	Condition	Initial	After 5	After
		Adhesive	times	Wash for
		Strength	Dry	90 min at
			Cleaning	60°C
Actual Example 1	A .	2.3	2.7	2.0
	В	2.2	2.6	1.9
Actual Example 2	A	. 2.5	3.0	2.4
	В	2.3	2.8	2.0
Actual Example 3	A	2.8	3.0	2.5
	В	2.6	2.7	2.3
Reference Example 1	A	1.2	1.6	1.0
	В	0.7	0.4	0

Condition

A: Bonded 1 day after preparation of adhesion core

B: Bonded 90 days after preparation of adhesion core constant-tempera-ture constant-humidity container of temperature 50°C and relative humidity 80%)

Bonding conditions

Bonding temperature 150°C

Pressure

 0.3 kg/cm^2

Bonding time

10 sec

Fabric for pasting Tropical (Tetron 45%, wool 55%)

Metsuke 150 g/m²

Dry cleaning

perchlene solvent was used

Washing:

a household neutral detergent and a

household electric washer were used.

Fig. 1



Fig. 2



Fig. 3





Fig. 5

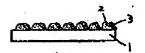


Fig. 6



Fig. 7

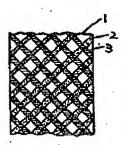


Fig. 8

